



学校だより

令和5年 1月31日

横浜市立榎が丘小学校

～豊かにかかわり合い、しっかり学ぶ、心身ともに健やかなえのきの子～

TEL 045(983)1067 FAX 045(983)5284
HPアドレス <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/enokigaoka/>



「笑顔」とともに

副校長 浅野 真弘

寒い日が続いています。暦の上ではまもなく「節分」、そして翌日が「立春」です。この日は名前の通り、春が始まる日とされています。季節の分かれ目は年に4回ありますが、冬から春になるときだけ「節分」という言葉が残っています。寒さを我慢していた冬から、新しい春が来るといふ変わり目がとても大切だからだと言われています。草や木の新しい芽が伸びるように、私たちも春は新しいスタートとなります。卒業して中学校に進学したり、上の学年に進級したりします。そうした季節だから、節分が大事にされたのでしょう。記録的な寒波が訪れた1月を越え、春の訪れを感じられる日が待ち遠しいです。

そんな寒さの中でも、学校では子どもたちの笑い声がよく聞こえてきます。廊下を歩いている時に、教室からどっと笑い声が聞こえると、つい気になって様子を見に行ってしまう。「あ、副校長先生だ!」「聞いて聞いて。今こんなことがあったんだよ。」と、今の出来事がいかにおもしろかったのかを熱心に説明をしてくれ、その話を聞いてまた周囲で笑いが起きます。私も一緒に笑います。こうした場面に出会えた日は、すっきりした気持ちで過ごすことができているように思います。

「笑うこと」が心や体によい影響を与えることは、医学的にも実証されていて、ストレスが減ったり、体の免疫力が高まったりするそうです。笑うときは腹式呼吸になり、多くの酸素を消費します。笑った時の酸素摂取量は、通常の呼吸の約3~4倍になるそうです。笑うことにより、大量の酸素が取り込まれ、細胞が活発化して働きが上昇するというわけです。子どもたちの学びにも、よい影響が期待できそうですね。

感染予防対策という制約をまだ外せない状況ですが、そのような中でも子どもたちは毎日元気に活動に取り組んでいます。その姿を見るたびに、私も体の底から元気が湧き出てくるような気がします。それと同時に、子どもたちが笑顔で過ごせる生活を、しっかりと守っていかなくては、と強く思います。

1月中旬より始まった、昇降口を通路とする改修工事を皮切りに、いよいよ新校舎の建築が進んでいきます。子どもたちが思いっきり体を動かし、笑う場であった校庭とは、しばらくの間お別れです。

約1年半後には、新校舎に子どもたちの笑い声が響き渡ることでしょう。新しい校庭や体育館を使うことができるのは、その後になるので、全てが新しくなった榎が丘小学校としてのスタートは、もう少し先のこととなります。その時まで、そしてその後も、子どもたちが笑顔で過ごせる学校であり続けたいと思います。笑顔から生まれる優しさや思いやりが周囲に広がり、みんながにこやかに笑って過ごせるよう、教職員も笑顔を忘れることなく、子どもたちと共に進んでまいります。ご家庭、地域の皆様のご理解とご協力を引き続きよろしくお願いいたします。

